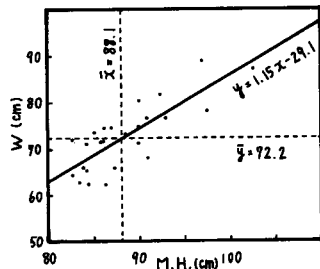


目的 消費者として既製衣料を購入する場合、寸法とサイズだけに頼らざるを得ない現状であるが、既製衣料を合理的に選択、着用するには、体型形態という要素を加え人体を総合的にとらえる必要がある。今回はシルエッターを用いて因子分析法により、女子大学生と中高年女性との胸・腰部の体型比較を試みた。また、その結果より中高年女性のフィット性を必要とするスカートの製作時に、体型形態がどのように関わってくるのかを立体裁断により比較検討し、適合度の高いパターンを得ることを目的とした。

方法 女子大学生25名と中高年女性25名の計50名について、身体計測よりW、M、Hの相関性を、またシルエッター計測結果より姿勢体型に分類後ウエストの水平差を求め、それぞれ比較検討した。さらに、姿勢角等14項目について因子分析を行い標準、反身、屈身体型に分類し、中高年女性の体型別にタイトスカートの立体裁断を行った。

結果 1. 中高年女性はW-M、Hの相関は高いが、W-Hの相関は低い。2. 因子分析の結果から、中高年女性の身体の充実度はミドルヒップと相関が高い傾向にあった。3. 平面展開した型紙から胴囲における水平差は、屈身体型は標準体型より後ろの水平差を大きくし、反身体型は小さくする方が、ウエストにおけるフィット性が増すことが明らかになった。



中高年女性のW-M.H.の相関